



外国文献紹介

他の MRI 画像で見つからないクッシング病の責任病変の検出における FLAIR 画像の潜在的有用性について

Chatain GP et al : Potential utility of FLAIR in MRI-negative Cushing's disease. J Neurosurg 129 : 620-628, 2018

クッシング病の責任病巣である微小腺腫の位置を正確に把握することは、手術を確実に行ううえで重要な意味をもつ。筆者らは、経蝶形骨洞手術を行ったクッシング病患者 23 例（24 病変）について前向き調査を行い、画像所見を検討した。術前に、造影剤を静注して FLAIR 法および 3D-GRE 法による MRI 検査を行った。その結果、3D-GRE 法では責任病変 24 病変中 18 病変が、FLAIR 法では 12 病変が検出され、3D-GRE 法のほうが検出能では優れていた。しかし、3D-GRE 法で検出されなかった 5 病変が、FLAIR 法で検出されていた。そして、ほかの MRI 画像で検出されないクッシング病の責任病変が、造影後の晩期相の FLAIR 法で高信号を示して描出される可能性があるため、造影後は FLAIR 法による撮像も行ったほうがよいと述べている。

瀬戸一彦